



2会場を結んで協定締結後の記念撮影。村役場で撮影に臨む(左から)杉岡村長、石井秀徳健康福祉課長、佐々木裕行施設長

## 福島県立医科大学と包括連携協定を締結

### いいたてホームを学生達の実習先に

2月14日、『飯舘村と公立大学法人福島県立医科大学との包括連携協定締結式』がオンラインで行われました。この協定は、村民の健康福祉に関する取り組みを推進していくことを目的とし、実習場所や村への移動手段の提供などを通して、福島県立医科大学の医療人材育成に協力するものです。

令和3年4月に開設された福島県立医科大学保健科学部作業療法学科は、福島県が経験した複合災害(地震・原発事故)をこれからの医療現場に活かしていくため、「地域医療災害医療から学ぶ」ことを方針としています。学生への講義の二環として、村の震災当時の状況を学び、主に高齢者を対象とした作業療法関連の取り組みを行います。そこで村

は、「いいたてホーム」を実習場所として提供することとなりました。年間13回、学生及び教員が「いいたてホーム」を訪問し、認知機能や生活機能改善に取り組み他、村内での介護予防教室、レクリエーションなどの実習を行います。今回の連携協定を機に、若者が村を訪れることにより様々な交流が生まれることが期待されます。

福島県立医科大学の竹之下誠一理事長は「飯舘村の復興に関与できることは、学生にとって貴重な経験となる」と述べ、杉岡村長は、「高齢者の健康維持・増進を最優先に、さらに賑わいの創出や、村民との交流の輪が広がることなどにも大いに期待している」と述べ協定締結への感謝を伝えました。

### 締結式のごあいさつから

福島県立医科大学  
保健科学部作業療法学科  
五百川和明 学科長

来年度から、2年生が実習先として「いいたてホーム」を訪問させていただきます。同施設は、東日本大震災と原子力発電所事故の被災地となりながらも、施設から避難せず運営を続けました。その貴重な経

験、教訓の承継の機会にもなると考えています。

また、介護予防教室の他、様々な場面において学生を受け入れていただき、調査・研究にもご協力をいただく中で、健康づくり、地域づくりの面でも連携していきたいと考えております。飯舘村からは学生の移動についてもご配慮を賜り心より感謝申し上げます。

杉岡誠 飯舘村長

東日本大震災及び全村避難以降、従前に増して村民に寄り添ったご対応をいただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

村も介護予防教室、健康体操やレクリエーション活動などを通して、高齢者の健康維持・増進に努めているところです。

が、そうした取り組みへもご協力いただけること、大変心強く思っております。また、学生の皆様が村を訪れてくださることから、賑わいの創出や、交流の輪が広がることなどにも大いに期待しています。医療人材育成の取り組みに協力してまいりますので、知見を生かしたご支援、連携強化に、お力添えをお願いいたします。



「いいたて福祉会」が運営する特別養護老人ホーム「いいたてホーム」は、家庭的な雰囲気での介護に取り組んでいます。一人ひとりの個性や生活リズムを大切に、職員・ボランティアが家族となって、入居者の「普通の暮らし」と「穏やかな笑顔」、そして尊厳を守っています。

### 特別養護老人ホーム「いいたてホーム」